

JOMF 派遣医師便り (2013. 7)

◆マニラ◆

漢方薬“甘草”の副作用による「偽性アルドステロン症」

マニラ日本人会診療所

菊地宏久

フィリピンでは日本のような一包ずつ製剤化された漢方薬はありません。患者さんの体質や症状に応じて東洋医学の専門家が適切な薬剤を調合・処方してくれます。漢方薬は適切に内服すればとても良い薬です。しかし西洋の薬と同様に使用法を間違えて内服すると副作用が発症する危険もあります。

今回は“甘草”を含む漢方薬から起きた副作用・偽性アルドステロン症について話します。皆さんへの啓発を目的としてお話しすることを患者さんからも快く御了解いただきました。

患者さんは「下肢の筋力低下」と「胸のドキドキ感」を主訴に来院しました。来院時の血圧は150/96と高く、心電図で不整脈も認められました。お話を聞いたところ「3か月以上に渡って“成分として甘草を含む漢方薬”を日本から調達して内服している」ことがわかりました。

甘草は鎮咳作用、抗アレルギー作用、抗炎症作用、緩下作用（便秘の薬）などがあり適切に使用すればとても良い薬です。しかし患者さんはその漢方薬を栄養剤代わりに飲んでいました。

症状は甘草の成分・グリチルリチンによる副作用で起こった可能性を話し、患者さんには漢方薬を中止していただきました。血液検査からは「偽性アルドステロン症」であることが判明し、症状や検査データも薬剤中止後2週間で改善しました。

今回は漢方薬の副作用について話しましたが、西洋の薬についても同様のことが言えます。不適切な内服はせず、薬の効果と共に副作用についても理解して内服することが大切です。

皆様お体大切にしてください。

(注)「偽性アルドステロン症」：副腎ホルモンのひとつであるアルドステロンが低下しているのに、アルドステロンが大量に分泌される原発性アルドステロン症に似た臨床症状を示す病態。高血圧症、四肢筋力低下、筋肉痛、不整脈などが起こる。放置すれば重篤化することもある。